



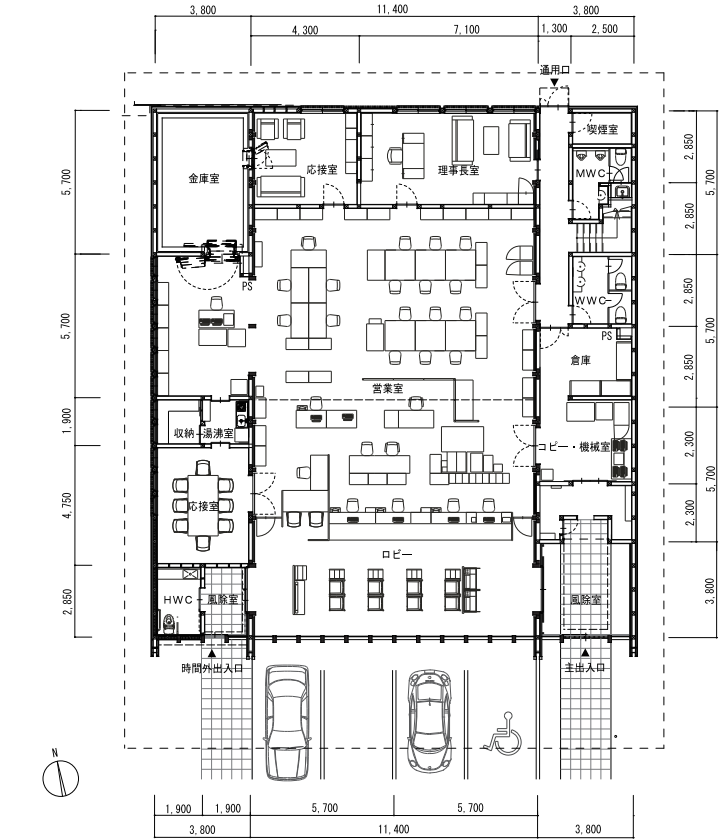
銀行の木造化という選択

高知県の西端、愛媛県に接する宿毛市の郊外に宿毛商銀信用組合の新店舗が建つ。
全国的にも珍しい木造の金融機関施設であり、日本で初めてCLTを主要構造部に用いた銀行である。
長年地域経済を支えてきた当銀行。社屋の老朽化による統合店舗の新築にあたり、
建築主(銀行)は地場産業と林業活性化を願い、国内初のCLT木構造の銀行として新築を決意した。
銀行のこれまでの閉じた重厚なイメージを木造で高貴に表現。
時間軸にもぶれず明快で美しく年を重ねる空間を、意匠と構造と設備の美しい融合で考えた。



営業室、ロビーの無柱空間の実現

CLTと大断面集成材により無柱空間を実現し、
銀行としての機能性を向上させた。

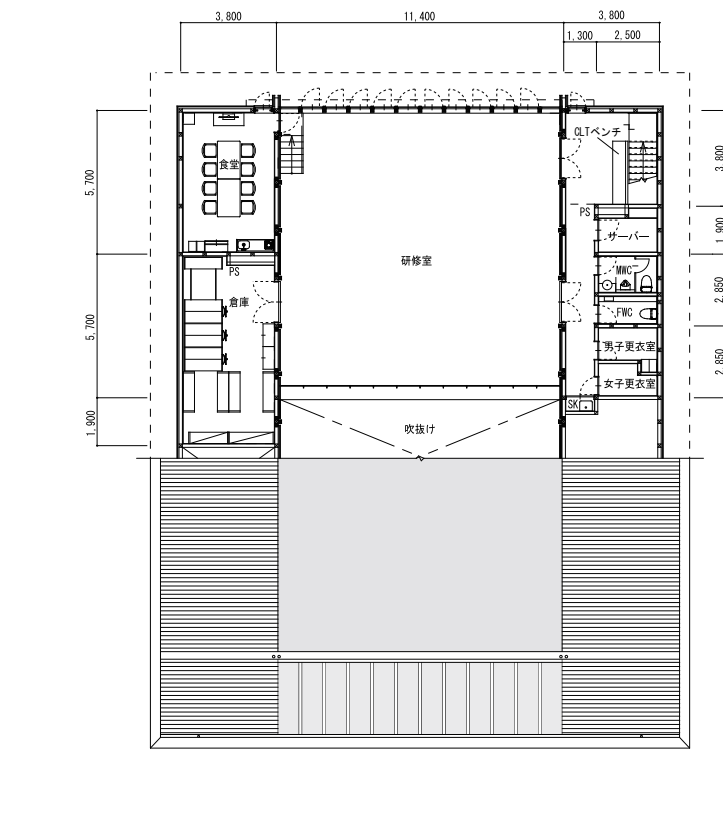


1階平面図 S=1:300



来訪者を包み込む軒下空間

奥行き4.4mのダイナミックな車寄せは、
来訪者を歓迎するように迎え入れる。

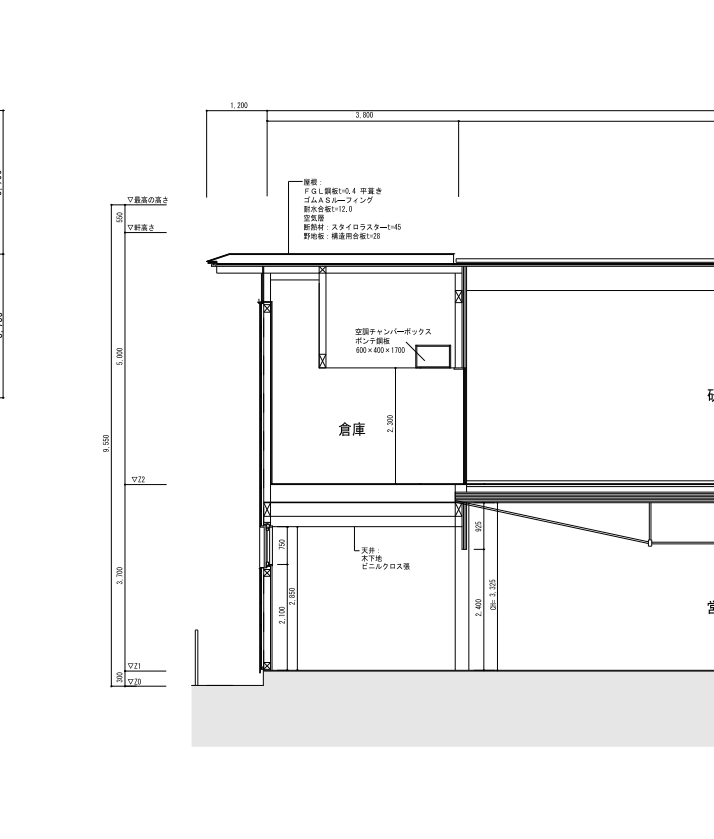


2階平面図 S=1:300



CLTの先進的な利用

CLT床板と鉄筋が一体となった張弦梁構造を採用。
無柱空間を実現する11.4mのロングスパンを可能にした。



断面図 S=1:150



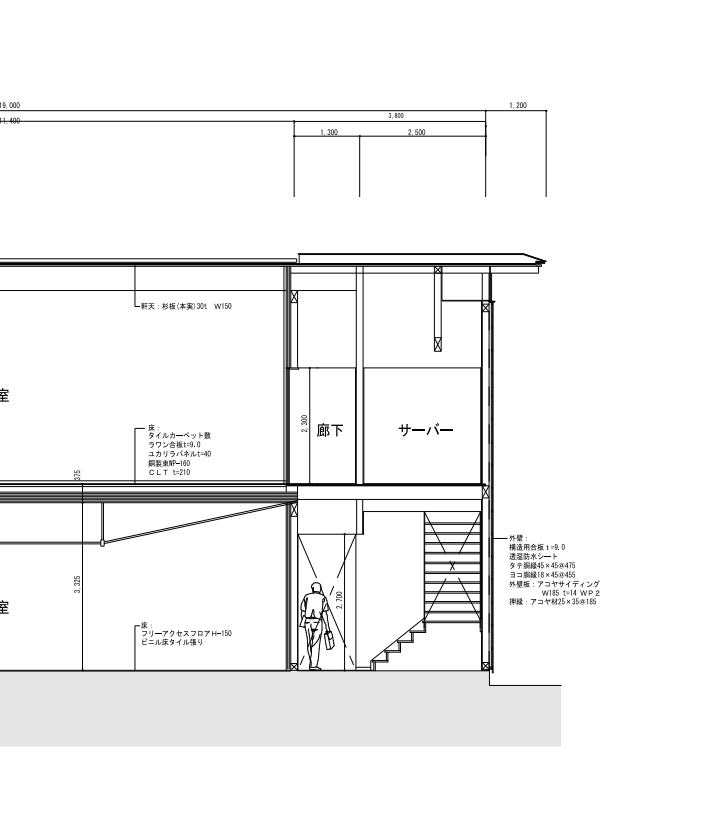
長スパンを極薄木スラブで実現

銀行としての機能性を向上させるCLT床板と
大断面集成材により、営業室・ロビー空間の無柱空間を実現。
階高縮小を伴うコスト縮減にも繋がり、木造の可能性、木材利用の領域を広げている。



多様なCLTの活用

より身近な家具にCLTを用いることで、
来客者へのCLT周知に繋がればと考えている。

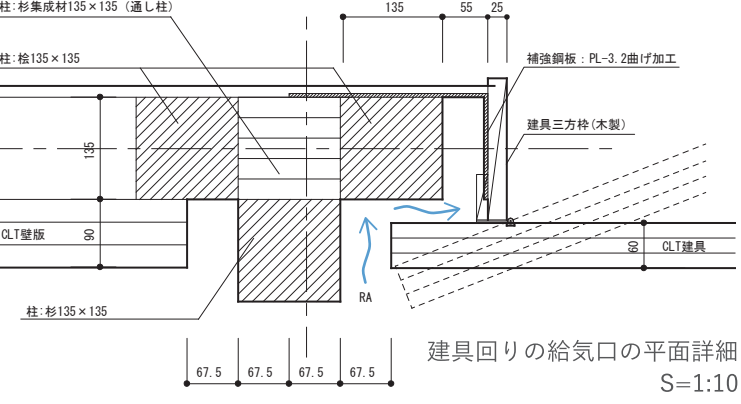


断面図 S=1:150

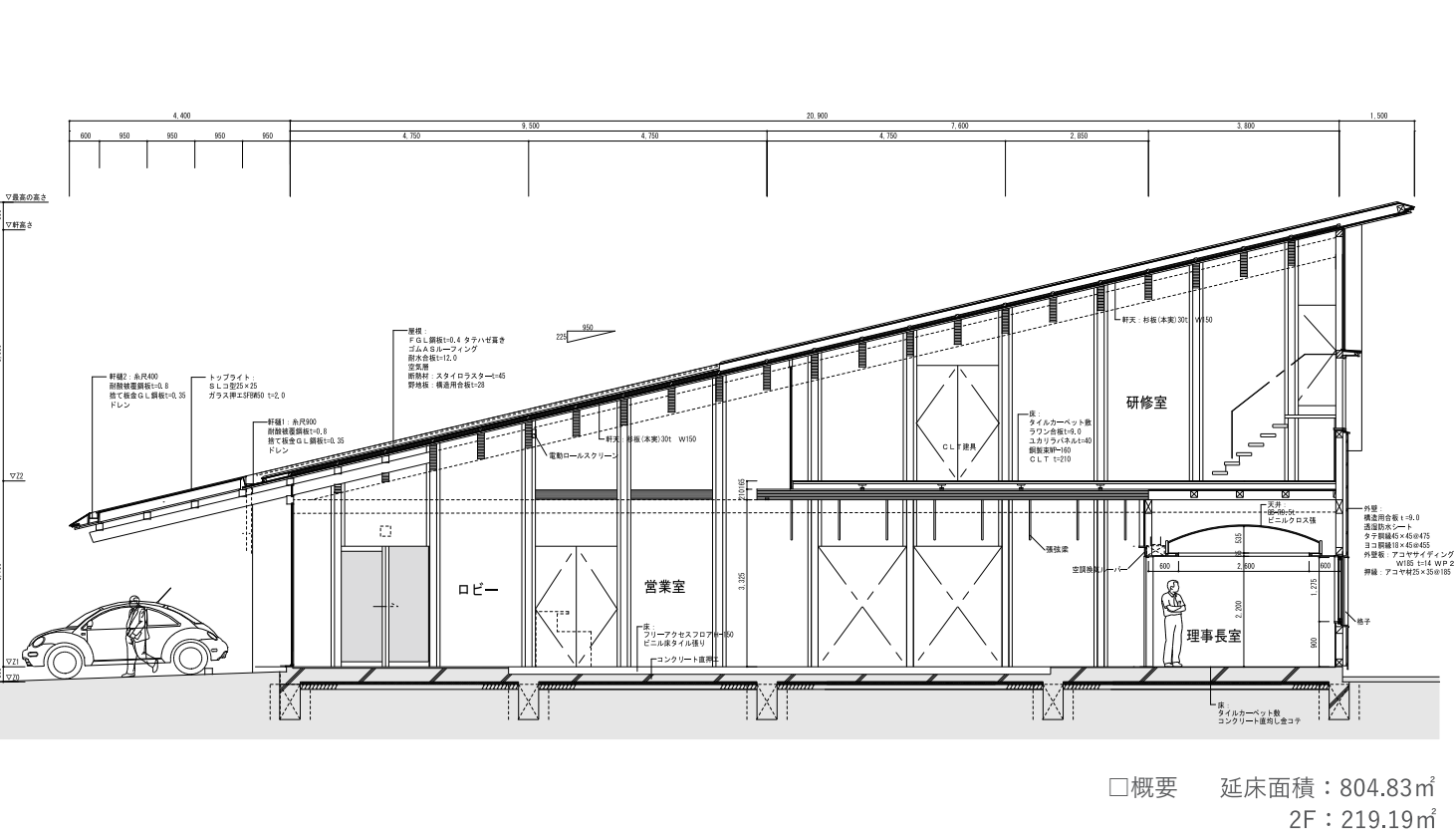


設備、構造も統合させたCLTの空間づくり

天井高さの高い2階研修室の床には
輻射式床下冷暖房設備を導入。
パネル厚さ40mmに流路、CLT
7層7プライ(210mm)を合わせて
約375mmの厚さのハイブリッド
スラブとした。



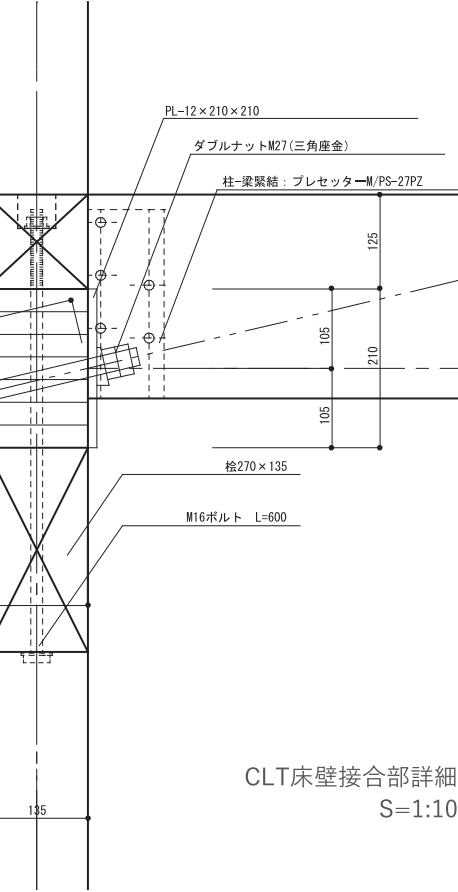
空調リターン口は、建具両サイドにタテ型流路を設け、
意匠的に存在を消している。意匠・構造・設備が融合した
快適な温熱環境をつくり出した。



断面図 S=1:150

2階研修室

空間に律動を生み出す傾斜天井。北側は大きく開口し、山々を借景として取り込んだ。



CLT床壁接合部詳細
S=1:10



[宿毛商銀信用組合本店]

概要 延床面積：804.83㎡
2F：219.19㎡
1F：397.10㎡
屋外建屋：188.54㎡